

海老根和紙を使った灯籠の淡い光が浮かんだ会場
17日午後6時30分すぎ、郡山中田町



海老根 長月宵あかり
伝統の海老根和紙を使っ
た灯籠が並ぶ「海老根、長月宵あかり」秋蛸が17日、郡山中田町の海老根地区

灯籠の光 秋の夜彩る

で始まった。灯籠の淡い光りが田園風景の中に浮かび上がり、秋の夜を彩った。18日までで時間は午後6時9時。地元に住民有志でつくる実行委の主催、海老根伝統手漉和紙保存会の共催。海老根和紙の魅力を広めようと毎年行っており、14回目。会場の海老根伝統手漉和紙工房周辺には、海老根和紙を円筒状にした約700個の灯籠が並び、幻想的な雰囲気を出した。灯籠には市内の小、中学校に通う子どもたちや市民らが見事に描いた絵などが書き込まれ、訪れた人たちが同地区の秋の風物詩を楽しんでいた。

雨天の場合は中止となる。問い合わせは事務局(電話024・941・3301)へ。

幻想的な光に包まれた「秋蛸」の会場



灯籠の幻想的な光に見入る

郡山中田町の伝統工芸品「海老根手漉和紙」で作った行灯(あんどん)に火をともし「第十四回海老根和紙秋蛸」は十七日、同市中田町海老根の海老根伝統手漉和紙工房周辺で催され、灯籠の幻想的な光に集まった多くの人が見入った。

海老根秋蛸実行委員会の主催、海老根伝統手漉和紙保存会の共催。市や郡商工会議所などの後援。三百五

郡山で海老根和紙秋蛸

郡山中田町の伝統工芸品「海老根手漉和紙」で作った行灯(あんどん)に火をともし「第十四回海老根和紙秋蛸」は十七日、同市中田町海老根の海老根伝統手漉和紙工房周辺で催され、灯籠の幻想的な光に集まった多くの人が見入った。

や文字を描きあんどんにした作品約七百個が道路沿いなどに並んだ。会場の灯籠には独特の生成(きなり)色の和紙に個人個人の独創性あふれる文字や絵が描かれ、訪れた人々は一つ一つの灯籠に吸い込まれるように見入っていた。

郡山ワイド

幻想の世界に招待



ハンドベル演奏を披露する宮城中の生徒たち

海老根 長月宵あかり

郡山中田町海老根地区の海老根伝統手漉和紙工房周辺で17日に行われた「海老根、長月宵あかり」秋蛸。多くの来場者でにぎわった会場周辺には伝統の海老根和紙を使った灯籠約700基が所狭しと並び、柔らかな光が秋の夜を幻想的な雰囲気に包んだ。地元住民有志でつくる実行委の主催、海老根伝統手漉和紙保存会の共催。

オープニングセレモニーでは、海老根直実行委員長が秋の風物詩となった取り組み



約700基の灯籠が設けられた「秋蛸」

を、今後も続けていくよう努力していく」とあいさつ。宮城中の1、2年生9人がハンドベルで「花は咲く」などを演奏、澄んだ音色で秋蛸開扉に花を添えた。

続いて点灯式が行われ、品川萬里市長、海老根実行委員長、海老根小児童代表の熊田英太君、熊田拓真君(6年)が巨大な灯籠に火をともした。